



大阪部会(第5回)

日 時: 2008年1月26日(土)18:30~20:00

場 所: 阪急ターミナルスクエア 17

【内容要旨】

- (1) 第5回目の部会は17名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、今後経済教育ネットワークが主催する年次大会(関西で開催予定)、シンポジウム(東京で開催予定)、および、高等学校の先生を対象にした研修会(東京と大阪で開催予定)の日程についての相談があった。
- (2) 続いて、河原和之氏(東大阪市教育センター)が用意されたワークシートについての意見交換が行われた。1~3枚目のワークシート(貨幣の役割、景気と不景気、不景気対策)については、生徒にとって身近な経済問題が取り上げられていて、考えさせる教材なので非常に役立つと思われる。ところが、4~5枚目(エピソードでつづる戦後経済史)については、生徒にとって実感のない歴史的事実を解説した知識注入型の教材なので、教育効果は薄いという意見であった。ともあれ、ワークシートの利用は非常に役立ち教育効果があることについては全員一致した意見であった。同時に、ワークシートを作成する際、学習の狙いや目的を明確にすることと、使い方の手引きを示すことも重要であるという共通の認識があった。そこで当分、このようなワークシートを作成する作業を継続していくことになった。
- (3) 新井明氏(東京都立西高等学校)が作成された「中高教員のための経済学入門講座」(企画案)をベースに、高等学校の先生を対象にした研修内容について話し合われた。ただ、2日間の研修では内容が多すぎるとの意見があり、研究内容を絞り込む作業を山本雅康氏(奈良学園中・高等学校)に依頼することになった。また、中学校の先生を対象にした研修は来年に開催する予定で、それまでに研修内容のアイデアを求めることにした。
- (4) 最後に、栗原久氏(信州大学)の用意された「米国の経済教育とマクロ経済からの構成」を参照しながら、このような資料は教科書の指導要領が簡潔に要約されているので分かりやすいという意見であった。そこで、現代社会も同じようなものが作成できないか。また、時事的な解説は多くみられるが、経済理論の用語に関する解説が少ないので、そのような類のものが作成できないかといった要望があった。

(文責: 西村理)